

陶土屋さん
からの
ニュースレター磁器
シキよまんば!

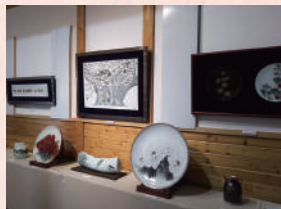
[早くよまなきゃ!]

巻頭のあいさつ

福岡県豊前市～大分県中津市～福岡県北九州市、個展&工房めぐり

昨年11月、福岡県豊前市で開かれた、末岡信彦さま・藤野貴則さまの釉描色絵二人展に伺いました。

お二人とも長野県在住ですが、ご出身は末岡さまが豊前市、藤野さまが豊前市のとなり大分県中津市耶馬溪町。そして、作陶展が開かれた、ほまれホールは末岡さまのご実家跡地に建てられており、こけら落としを兼ねた里帰り展でもあります。新聞やテレビで取り上げられたとのことで盛況でした。久しぶりにお会いして土や釉薬の事などすっかり話し込んでしまいました。



釉描色絵二人展



末岡さま・藤野さまと

その後、大分県中津市、福岡県北九州市へと移動。北九州市ではお客さまお二方の工房へお邪魔させていただきました。

八幡東区の祐工窯 阿部眞士さまのところでは、瀧田項一に師事されていたことから民藝の話や、砥部焼の話など初めて聞くお話ばかりで驚きでした。

若松区の小石神側文窯 鹿谷敏文さまのところでは、昔話や有田の話で大盛り上がり。どなたのところでも長居に長話ですごく楽しい時間を過ごさせていただきました。みなさま本当にありがとうございました。

新型コロナウイルス感染症の影響で思うように出かけることは出来ずにいますが、個展の案内等は是非お送りください!

阿部さまと
(自撮り下手で
すみません)2回目の登場、
鹿谷さま

阿部さま作品 鹿谷さま作品

淵野直幸

対馬長石の現状
(対州長石)

対馬長石の鉱山は、その名の通り長崎県の国境離島「対馬」にあり、博多港より北西約140 km、韓国釜山より南約50 kmに位置します。



対馬下島阿須須湾のすぐ近くです

長年、「対州(たいしゅう)長石」として販売してきましたが、原産地を明確にし、ブランドイメージ及び知名度アップを図るため、2018年5月に「対州長石」から「対馬長石」へ名称変更を致しました。

対馬長石は、石英斑岩が熱水変質作用により白色化した岩石で、石英と灰曹長石を多く残存する弱変質岩(準陶石)に分類され、珪石・長石・微量のセリサイトを鉱物組成とするソーダ長石です。その鉱床は対馬下島東部の延長約10 km、幅約1.1 kmの範囲に賦存しており、ソーダ長石としては国内最大級になります。

大正時代末期には、対州白土・長石

を採掘する業者が数多く存在し、衛生陶器・碇子・食器をはじめ、硝子・タイル・白色セメントなどの原料として盛んに利用されてきました。

しかし、100年余り経過し採掘を行っているのは弊社1社のみとなりました。現在、年間およそ3万トンの採掘を行っております。この生産量と比較すると、この先100年以上大丈夫な埋蔵量です。

私共は、蛍光X線分析装置を所有しており、採掘から生産ライン(選別・粉碎・貯鉱)、出荷に至るまで即日に成分分析を行います。また鉱山貯鉱場に成分毎に管理された原石ロットを、数年分の量で常に確保しているため、天然原料にもかかわらず、品質を安定させて出荷する事が出来ます。



蛍光X線分析装置

また、分析結果をもとに陶磁器用原料としては使用できない規格外品は、地元の公共工事等に利用される土木建築用骨材として出荷しており、採掘した原石は余すことなく「限りある資源の有効活用」に繋げて

います。

2020年、思わぬところから対馬に注目が集まります。世界的人気ゲームとなった「ゴースト・オブ・ツシマ」の発売です。TBSテレビの「世界ふしぎ発見!」で特集されるなど、2度目の緊急事態宣言前は、舞台であるここ対馬を訪れる方が増えていました。

対馬だけでなく「対馬長石」も多くの方に注目して頂けるよう、今後もより一層の品質管理・安定供給に努めつつ、活用分野を広めていきたいと思っています。



八重島窯業原料㈱です。長崎県対馬で大正6年に対州白土の採掘を始めました。その後、対州白土の枯渇化に伴い、主力はソーダ長石である対馬長石の採掘販売です。

対馬長石(対州長石)は「碇子(がいし)」用原料から始まり、注射器やアンプルなどの「ガラス」、タイル目地の「白色セメント」、釉薬原料として波佐見・有田焼などの「食器」、トイレや洗面台の「衛生陶器」、などなど様々な用途で皆様にご愛用いただいています。

是非この機会に弊社ホームページをご覧ください。

HP→<http://www.yaeshima.co.jp>



対馬長石鉱山

ひなまつり

こんにちは！ 淵野家三女のマリです。というは冗談(笑)。サン・マリデザインオフィスの友永です ^^ 時々、ここに登場させていただくことになりましたので、よろしくお祈りします♪



淵野さんとの出会いは2011年。私の前職場が主催していた「共感マーケティング」という文章講座の共に修了生なんです。もう10年だなんて(▽▽)。私は福岡県に住んでいるので、「ジキよまんば!!」の打ち合わせでは佐賀県を訪れます。その際は毎回ちょっとしたドライブ気分？ 旅行気分？ 観光気分？ もあったり(笑)。打ち合わせ後は佐賀を満喫しております。

2月20日、有田陶器市で有名な有田町で「第17回 有田 雛(ひいな)のやきものまつり」が行われていました。そこで、今号の打ち合わせ後、ブラアリタしてきました！ 町内の施設や陶磁器店に展示されている有田焼のお雛様やその家に代々伝わる雛人形を観てまわれるイベントです。

陶磁器のお雛様ってなんだか粋。この時期、ここでしか見られない「世界最大の磁器製座りびな七段飾り」は3年がかりで作られたものだから！ すごく細かなところまで綺麗に作り込まれていて、思わず見惚れてしまいます。

世界最大の磁器製座りびな七段飾り



我が家の小さな有田焼雛人形☆



実は去年も楽しんだのですが、今年は娘の雛人形(と言っても、小さな小さな置物)を購入するのが目的♪ 一通り、お店を覗いて、ちょうどお手頃サイズ&お手頃価格なものを購入。早速、家に帰って玄関に飾ってみると…。う〜ん、やっぱり粋。

ブラアリタで見つけた、アクセサリショップ「楠-Kusunoki-」さん。ふわぁ〜と吸い込まれるように店内に入ると、そこはテンションが上がる空間でした。

このお店は、有田焼「オリジナルパーツ」の製作とそのパーツを使用したアクセサリ、天然石やガラスを使用したアクセサリの製作と販売をされています。アクセサリ好きの方にはオススメ、ぜひ、立ち寄って欲しいです ^^

仕事に来てるのか、観光に来てるのか、時々???となりますが、いつも充実感と一緒に帰路についています(笑)。友永真麗



かわいいアクセサリが並んでいます♪ 有田焼のカケラで作られたピアス購入



沢山の雛人形が楽しめます



香蘭社の世界最大の磁器製ひな人形



柿右衛門窯製雛人形



会長さんの昔話

こちら肥前地域の粘土の伝統的な製法はスタンパーによるものであるため、ボールミルで作った粘土は「ミル土」とか「配合陶土」などと呼ばれ今でも区別されます。たしかに、粘りの質や口口口の感触・削りのタイムングなどが異なります。白くない磁器土「赤土」を作り始めた35年以上前、スタンパーで作った土が

地域のほとんどを占めており、歴史的にそのような粘土を使い続けてきたこともあって、スタンパーではない粘土はなかなか受け入れられない状況でした。「ミル土」と言っただけで、窯元さんや生地屋さんと呼ばれる成形業者さんに拒絶反応を示されていきました。

重視で使われていました。「赤土」の生産が軌道に乗りに始めると、白くない磁器が他の窯元さんたちの目に留まるようになり、「赤土」を使ってみたいという引き合いが増えてきました。

この問いに正直に答えては機会を逃してしまいます。しかし、「スタンパーです」という全くの嘘もつけません。なんとか買ってほしいという私は、「天草を使っています」とはぐらかしたり(天草陶石を使用しているのは事実です)、「スタンパーを混ぜています」という嘘をついたりして販売に近づけていきました。



ボールミル ▶ スタンパー

器用の粘土を作っているのは当社だけではなくはいるいろいろな種類の土が出回り、昔より障壁は低くなっています。しかし、依然としてスタンパー優位の地域性は残っています。 淵野義則

